

2018年度も、院長の私以外の専門スタッフを雇用することができず、心不全などの循環器疾患の入院患者さんを他の診療科の医師にお願いすることとなった。

1. 入院

入院患者のデータは、循環器疾患の患者さんのみにしぼっての報告とする。

2018年度の循環器疾患患者の入院数は105名であり、その多くは超高齢者であった。平均年齢が85±8.5歳（中央値は86歳）で、80歳以上が84名で80%。このうち死亡された患者さんは17名で16%であった。

入院の疾患別内訳としては心不全が最も多く、74名（慢性心不全の急性増悪52名、急性心不全22名）。心筋梗塞での入院は6名。急性期治療の目的で熊本市内の急性期病院へ転送となった急性心筋梗塞の患者さんが11名であった。なお、C P A O Aの患者さんで虚血性心疾患を疑われる内因性心臓死の方が9名おられた。

急性大動脈解離は、転送が今年は1名のみであったが、C P A O A症例でA Iにより大動脈解離が死因と考えられた症例は3名であった。その他の入院では不整脈に関連した患者さんが8名、大動脈瘤の術後や閉塞性動脈硬化症などの血管疾患が8名だった。

記憶に残ったのは大動脈弁の生体弁による人工弁置換術後19年目と20年目の患者さんが弁機能不全（1例は逆流、1例は狭窄）で心不全になったことである。人工弁置換術後で高齢となる患者さんが今後増えてくるのかもしれない。

（ちなみに、このお二人は2019年になり無事経カテーテル大動脈弁留置術（T A V I）を受けることができて症状は改善されている）

当院の全体の入院患者さんの半数以上の方が80歳以上となっている。このため、骨折などで入院される高齢者も多く、そういった患者さんでは、心房細動、慢性心不全、大動脈弁疾患などの合併も多く、そのような患者さんの管理も最近増加している。

(表1) 入院患者の疾患内訳 (例)

急性心筋梗塞（転送を含む）	17
急性大動脈解離（C P Aを含む）	4
心不全	74
不整脈	8
狭心症、O M I	2
血管疾患	8
弁膜症	4

2. 外来

外来では、今年も済生会熊本病院心臓血管外科から毎週外来の支援をしていただいた。

外来患者さんの多くは生活習慣病が中心である。毎月約900名の診療を行った。中でも糖尿病の症例は増加が著しく、約25%程度であった。

外来で定期的にペースメーカーチェックを行っている患者さんも60数名おられた。

循環器関連の検査は前年度と大きな変化はない。心電図：4828件、トレッドミル：33件、ホルター：124件、心エコー：1660件、負荷心エコー：9件、A B I：126件、下肢動脈エコー：45件、下肢静脈エコー：137件、頸部血管エコー：150件、ヘッドアップティルトテストが166件であった。(表2)

(件)

	2016年	2017年	2018年
心エコー	1,439	1,568	1,660
負荷エコー	10	11	9
トレッドミル	34	28	33
ホルター	135	144	124
頸部血管エコー	131	169	150
下肢血管エコー	175	183	182
ヘッドアップティルトテスト			166
A B I	125	126	126
心臓C T	15	24	22
血管C T & M R I	130	123	139